

本部だより

◇平成16年度 日本生物工学会年次大会後記◇

大会実行委員長 飯島 信司

日本生物工学会の平成16年度大会が9月21日～23日にかけて名城大学天白キャンパスにて開催された。名古屋での開催は8年ぶり3回目であったが、過去2回（名古屋大学）と異なり、今回は名城大学のご厚意により同大学での開催となった。学期の合間の開催ということで、台風シーズンと重なってしまい、当初会期中の天候が気掛かりであったが、台風の上陸数が過去最高となった割にはその合間をぬって開催でき、天候としては申し分なく行うことができた。ただ大会期間中はまだ暑さが残っており、特に総受付・展示会場では、空調がきかなかつたために皆様にご迷惑をおかけした。講演申込件数は、一般講演598件、シンポジウム12テーマ59件、招待講演3件、受賞講演7件、合わせて667件であった。一方、有料参加者数は正会員730名、学生会員393名、非会員205名の合計1328名に達し、昨年度より60名の増加であった。特に本年度は非会員の当日登録が例年より多く、名古屋という地の利、企業業績の回復にともなうバイオへの関心の回復、多様なシンポジウムの開催などが原因と考えられた。展示会には21社の出展協力が得られたが、こちらのほうは、開催地条件の割には数的には伸びなやみとなった。

大会1日目には、午前中に授賞式があり、新名惇彦会長の挨拶、授賞選考経過報告に続き、生物工学賞2件（大宮邦雄氏、松永 是氏）、技術賞（山下道雄氏ら）、江田賞（岩下和裕氏）、斎藤賞（福崎英一郎氏）、照井賞（大政健史氏）、生物工学アジア若手賞（Amulya Panda氏）、論文賞（春田 伸氏ら、杉本真也氏ら、本多裕之氏ら、河原崎泰昌氏ら、後藤雅宏氏ら）の各賞が授与された。また名誉会員として、小林 猛氏と吉田敏臣氏が推戴された。授賞式のあと、大宮邦雄氏から「嫌気性細菌の機能を駆使したバイオマスの有効利用」、松永 是氏から「生物磁石の利用に関する基礎的研究」、山下道雄氏から「深在性真菌症治療剤ミカファンギン（FK463）の工業化研究」、Amulya Panda氏から「High Throughput Recovery of Recombinant Protein from Inclusion Bodies of *Escherichia coli*」と題する受賞講演が行われ、顕著な功績のあった講演に盛んな拍手がおくられていた。大会1日



授賞式（会長挨拶）



懇親会風景

目午後から、3日目午前まで一般講演、シンポジウム、その他の受賞講演、招待講演が予定通り行われた。また、大会2日目午後には、JABEE ミニ講演会、3日目午後にはバイオベンチャーサロンが開催され、学会の新しい取り組みを紹介する講演会となった。さらに2日目には就職のための企業説明会も催された。講演会場については、大会初日が名城大学の後期授業開始日と重なってしまい、初日と2、3日目で会場を入れ替えなければならなかったが、大きな混乱もなく、どの会場も白熱した議論とともに盛会のうちに講演が行われた。

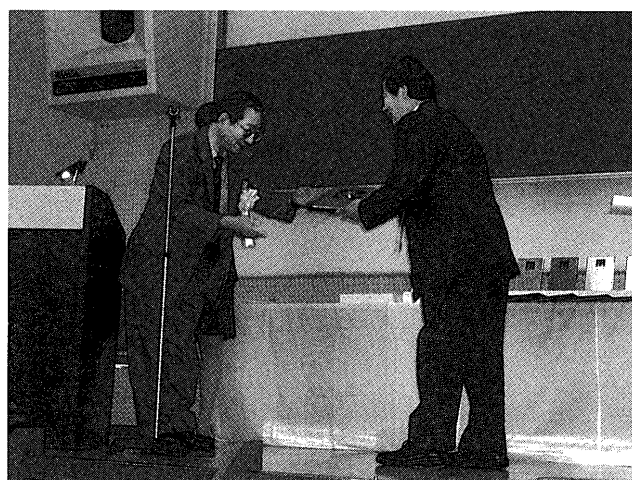
以下に今大会に関わる特記事項を示す。

- 1) 講演登録：平成14年度大会より全ての講演について、講演要旨を含めてインターネットにより受け付けている。3年目ということもあり、登録には大きな混乱はなかったようだが、受付締切り後の追加申込みや修正依頼が何件あった。サーバー管理を業者に委託しており、プログラム編成や要旨集印刷などをぎりぎりの日程で行っているため、締切りから数日後以降のものについては対応が不可能であった。
- 2) シンポジウム：多くのシンポジウムテーマの応募があり、会場の関係でお断りしなければならないものもあった。どのシンポジウム会場も盛況であったと聞いており、オーガナイザーの皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げる次第である。
- 3) ライトパーティー・昼食：会員諸氏に展示会場に足を運んでいただくため、大会初日夕刻に発泡酒と軽食によるライトパーティーを行い、好評をいただいた。また大会2日目は、名城大学の開学記念日にあたり、学内食堂および周辺の食堂も多くは閉店になるということで数限定で弁当の無料配布を展示会場で行った。たいへん盛況ではあったが、数限定であったためすぐになくなり、頼んで開けてもらった唯一の学内食堂には、長い行列ができてしまった。
- 4) 懇親会：大会2日目夕方よりメルパーク名古屋にて懇親会を行った。講演会場から少しはなれているため、送迎バスを用意した。懇親会に先立ち、懇親会場に隣接する部屋で、東海ものづくり交流会を愛産研の深谷伊和男氏のお世話で行った。山下 勝氏から「愛知の発酵ものづくりの歴史」と題した講演を賜り、約150名の参加をえて、日本酒の試飲とともに懇親会前のひとときをすごした。本番の懇親会では、約400名の参加をえて、会場が狭く感じるぐらい大盛況となったが、料理・飲料においても不足なくご満足いただいたようで安心した。日本酒については、深谷氏のご尽力により、この地方のとおきのおきの優れものが集まり皆様に喜んでいただけた。

今回の大会は、例年より企業から多くの参加をいただき、バイオ産業においても徐々に景気の回復がみられてきたことを実感するとともに、日本生物工学会のバイオ産業における高い認知度と、これから本学会が果たす役割の期待度を示しているものと思われた。



生物工学賞の授与（大宮邦雄氏）



生物工学賞の授与（松永 是氏）